



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

3月号—No.370
2026.2.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【葵色(あおいいろ)】葵の花のような灰味がかかった明るい紫色。

平安時代からある古い色名。葵は初夏に大輪の花を咲かせるアオイ科のタチアオイのことで、ハイビスカスやフヨウ、ムクゲも同じアオイ科。白や紅、黄などいろいろな色の花を咲かせるが色名になっているのは、高貴な色とされる紫。ちなみに徳川家の家紋の3つ葉葵はフタバアオイの葉を図案化したものであり、タチアオイとは関係ない。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和7年度「公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業」報告
財団からのお知らせ..... 4

2025・2026年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト公開プレゼンテーション開催のお知らせ / 「特別寄稿 ビューポイント view point」No.23について / ステージラボ鶴岡セッション開催のお知らせ / 令和7年度「地域創造セミナー」報告

今月の情報..... 6

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

京都市 京都コンサートホール開館30周年記念事業
「京都市ジュニアオーケストラ創立20周年記念コンサート」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

障がい者関連の支援事業がスタート

令和7年度
公共ホール音楽・
現代ダンス活性化
障がい者関連事業



写真

- 1: 鶴岡養護学校でのアウトリーチ(セレノグラフィカ)
- 2: 伊賀つばさ学園でのアウトリーチ(石上真由子)
- 3: 倉敷市立上成小学校でのアウトリーチ(野尻小矢佳)
- 4: 愛知県立豊橋聾学校でのアウトリーチ(田畑真希)

●令和7年度公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業

◎実施ホール/派遣アーティスト/コーディネーター

●荘銀タクト鶴岡/セレノグラフィカ(隅地茉歩+阿比留修一)/佐藤拓道(たんぼぼの家アートセンター HANA副施設長)

●伊賀市文化会館/石上真由子(ヴァイオリン)/田中玲子(認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー/理事)

●倉敷市玉島市民交流センター/野尻小矢佳(パークッション)/津村卓(一般財団法人地域創造プロデューサー)

●穂の国とよはし芸術劇場PLAT/田畑真希/松本志帆子(薬工ミュージアム学芸スタッフ、NPO法人蛸蔵理事)

◎問い合わせ

芸術環境部 垂水・波多野
Tel. 03-5573-4076
project@jafra.or.jp

地域創造では、公共ホールのニーズを踏まえ、障がい者等を対象とした事業を担う職員の企画・制作力の向上を図る「公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業(以下、障がい者関連事業)」を令和7年度にスタートしました。「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が2018年に施行されたのを機に、公立文化施設でもハードの改修だけでなく、さまざまな形でアクセシビリティの向上が図られています。

今回の障がい者関連事業では、公共ホール音楽活性化事業、公共ホール邦楽活性化事業、公共ホール現代ダンス活性化事業を実施した団体を対象とし、その蓄積を生かして特別支援学校や福祉施設等で行うアウトリーチを支援します。特徴は、地域での豊富な経験を有する登録アーティスト(おんかつ支援・ダン活支援)を派遣すること、障がい者を対象とする事業の経験があるコーディネーターを派遣すること、障がい者福祉の現状や事業実施に必要な知識を得るための全体研修会が行われることです(今年度の全体研修会の模様はレター2025年7月号参照)。

アーティストを伴った下見を経て、最大4日間(2回に分けての派遣が可能)で4~8回のアウトリーチを実施することができます。また、長期的なビジョンをもって取り組めるよう、最大3カ年の継続が可能となっています。

今年度は、3月末までに荘銀タクト鶴岡、伊賀市文化会館、倉敷市玉島市民交流センター、穂の国とよはし芸術劇場PLATが事業を実施します。今回は、セレノグラフィカ(以下、セレノ)とコーディネーターの佐藤拓道さん(たんぼぼの家アートセンター HANA副施設長)の派遣により、1月27日に福祉施設関係者への体験ワークショップ、28日、29日に山形県立鶴岡養護学校へのアウトリーチを実施した荘銀タクト鶴岡の取り組みをご紹介します。

●ダン活での取り組みを障がい者施設に繋げる

荘銀タクト鶴岡では、2019年度からセレノ、中村蓉さん、長与江里奈さんによるダン活を実施してきました。また、23年度から一部事業で字幕タブレットや手話通訳といった鑑賞支援サービスを導入。昨年度には福祉施設へ

のアウトリーチも初めて実施しました。

今回は、これまで接点のなかった障がい者施設に活動を広げたいと、1日目に障害者就労継続支援事業所、障害者自立訓練事業所、鶴岡市福祉課など6団体14名が2人1組になって相手の人差し指を追いかけるなどセレノのワークを体験しました。チアダンスの経験もあるという鶴岡市立愛光園デイサービスセンター指導員の安野星さんは、「指導員になったときからダンスを通じて子どもたちに関わりたと思っていた。これまで絵の表現活動や、やまがたアートサポートセンターら・ら・らからの紹介で菊地将晃さんとのダンス活動をやってきた下地があるので今回の事業もできるのではないかと思っている。コンテンポラリーダンスと言われてもわからないのでこういう体験できる機会があるのはとてもありがたい」と話していました。

2日目、3日目のアウトリーチでは、小学部1・2年生と小学部5・6年生が体育館、小学部3・4年生が教室規模のプレイルームでワークを行いました。いずれの会場でも、セレノが養護学校の先生たちのアドバイスを受けて作成するようになった、大きな字で「今日のメニュー」を書いたホワイトボード(イラスト付き)が設置され、アクティグエリアの目安にはカラフルなコーンが置かれていました。

ビッグアイ(国際障害者交流センター)で行われている「大阪府障がい者オープンカレッジ・ダンスコース」への2006年から11年までの参加を皮切りに、さまざまな現場で障がいのある人とのワークを積み重ねてきた隅地さんと阿比留さんは、「今回のプログラムは養護学校のためだけのものではなく、小学校などで行っているワークの短縮版(45分)。下見の時に先生たちに30分ぐらい体験してもらった。特別なケアが必要な子がいるなど、個別の情報を細やかに入手しておくことが必要で、このメニューはできないのでは?などと決めつけず、みんなでやり方を探しながら、愛情溢れる先生方と気持ちをひとつにして過ごす時間が大切だと思っている。身体があるということは素

晴らしく、その身体を動かすと楽しく、その楽しさはきっと誰かと共有できる、その瞬間をキャッチしてほしい」と話していました。

セレノと子どもたちの距離はとても近く、一人ずつに声がけしながら踊るように握手する「あいさつ」から始まり、オノマトペのような声を出しながら動く隅地さんに促され、立ち上がって「歩いてみよう ストップ&ゴー」、人の動きを真似る「まねっこダンス」へと展開。ひとりで走り回ったり、離れて見つめたり、付き添いの先生に抱かれていたり、別の部屋からリモートで参加したり、車椅子を下りたり、まねっこダンスのリーダーとして自らいろいろな動きを提案したり。そこにはそれぞれの身体が居心地よくしていただける空気がつくり出されていました。

今回初めてコーディネーターを務めた佐藤拓道さんは、「障がいのある人と事業をしたいけど、失礼があるんじゃないか、何を準備すればいいかわからないなど、慎重に考えすぎて及び腰になっているホールの職員も多い。ホール側のふわっとした不安を具体化しながら、手助けできればと思っている。今回、ダンスのワークと一緒に体験して、その懐の深さを実感した。手を重ねただけで場の空気が変わる。参加者のポーズに意味をつけるのではなく、そのまま受け止められる。重度の人でも指先だけでできる。こういうワークをその場において一緒に体験することが大切だと改めて感じた」と振り返っていました。



今年度の派遣アーティストである石上真由子さん(ヴァイオリン)、野尻小矢佳さん(パーカッション)、田畑真希さん(振付家・ダンサー)のアウトリーチでもさまざまな取り組みが行われました。令和8年度の事業実施団体の全体研修会が4月13日、14日に開催される予定です。ぜひこの事業に興味をもっていただければと思います。

財団からのお知らせ

●2025・2026年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト公開プレゼンテーション開催

「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」は、全国の公共ホール等との共催により、地域の皆様との交流を図る地域交流プログラムと本格的で親しみやすいホールコンサートを共同でつくり上げる事業です。昨年に引き続き、2年目となる5名の登録アーティストによる公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、令和8年度のおんかつ実施団体を対象に行うものですが、今後おんかつの実施を検討されている公共ホール職員の方など、当事業に関心のある方もご覧いただけます。

アーティストが地域交流プログラムやコン

サートにどのように臨むのかを知ることができる絶好の機会です。ぜひご応募ください。

◎おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程]2026年4月21日(火) 15:00開演

[会場]TOPPANホール

(東京都文京区水道1-3-3)

[出演]2025・2026年度登録アーティスト

[内容]各組25分程度のプレゼンテーション

[参加申し込み方法]

当財団ホームページの参加申込フォームよりお申し込みください

https://www.jafra.or.jp/event-request/onkatsu_presen2026/

[募集期間]2026年4月10日(金)まで

※定員に達し次第、申し込み終了。



2025・2026年度 公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト



©Junichiro Matsuo
みほみほ 三原未紗子[ピアノ]



©Yukiko Shibuya
すずき まい 鈴木 舞[ヴァイオリン]



きたがき あや 北垣 彩[チェロ]



やまざき たかひろ 山崎由貴[ユーフォニアム]



おの mitsuru 小野寺 光[バスバリトン]

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.23 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

23回目となる今回は、アーツカウンシルしずおか チーフプログラム・ディレクターの櫛野展正氏

にご寄稿いただきました(3月中旬更新予定)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/6902.html>

◎問い合わせ
芸術環境部 伊藤
Tel. 03-5573-4093



●公共ホール音楽活性化事業に関する
問い合わせ
芸術環境部 金山・北川
Tel. 03-5573-4168
onkatsu@jafra.or.jp

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●ステージラボ鶴岡セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得することを目的に開催する研修交流事業です。ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視した少人数ゼミ形式の実践的な内容が特徴です。令和8年度の前期セッションは、荘銀タクト鶴岡にて2コースで開催します。

詳細や参加者募集は、次号(4月号)の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。皆様のご参加をお待ちしています。

◎ステージラボ鶴岡セッション概要

[日程] 2026年7月7日(火)～10日(金)

[会場] 荘銀タクト鶴岡

(山形県鶴岡市馬場町11-61)

◎開講コース(予定)と対象となる職員の目安

【ホール入門コース】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

【自主事業コース】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

●令和7年度「地域創造セミナー」報告

文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくり、また、文化・芸術関係者の広域的な連携強化を目的とした研修会に地域創造が講師の派遣等による支援を行う地域創造セミナー。令和7年度は宮城県、秋田県、千葉県、三重県の4県で実施しました。セミナーの実施報告として、三重県と千葉県の模様をご紹介します。

三重県では、公立小松大学・准教授で、福井県の文化芸術推進会議委員などを務める朝倉由希さんを講師に迎え、「文化政策の新しい展開と仕組みづくり」をテーマにご講義いただきました。これまでの文化行政を取り巻く動向を振り返るとともに、朝倉さんの関わる福井県での文化振興プラン作成やそれを受けた体制構築の状況を紹介いただきました。講義の中では、文化振興により目指す方向性を地域で共有すること、またそのための体制づくりが重要であるが、どのような体制が適しているかは組織風土や行政と文化団体等の関係性などにより地域で異なるため、正解のかたちは一つではないことなどが提示されました。参加者からは、三重県でこれから何が必要となるのか改めて考える機会となりました、という声が上がリ、今後の三重県での体制づくりに向けての機運を高める一助となったのではないかと感じました。

千葉県では、宮城県の新県民会館開館準備室・室長の林健次郎さんを講師に、「地方公立

ホールの広報 基礎編」と題し、講義とワークショップを実施しました。それぞれの認識の違いから、担当者がモヤモヤしてしまいがちな「広報」について、基本の考え方を学ぶとともに、施設の事業における広報、そして地域においてさまざまな役割を担う文化芸術拠点としての施設の広報の考え方をご講義いただきました。また、近い職位で、異なる施設や自治体からの参加者同士でグループワークも行い、「広報担当者がいたらやってほしいこと」というテーマの中で、それぞれの施設の課題や事例を共有するなど、積極的にコミュニケーションをとることができ、充実したセミナーとなりました。

当事業では主催する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基にセミナーを行っています。次年度は3県での開催を予定しています。



地域創造セミナー千葉県の様子(講師:林健次郎さん)

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 児島・嶋崎
Tel. 03-5573-4183

●地域創造セミナーに関する問い合わせ
芸術環境部 中嶋
Tel. 03-5573-4066

地域通信

●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
芸術環境部 伊藤・中嶋

●2026年5月号情報締切

2026年3月15日(日)

●2026年5月号掲載対象情報

2026年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●北海道中標津町

中標津町文化スポーツ振興財団
〒086-1002 中標津町東2条南3-1-1

Tel. 0153-73-1131 家政美香

<http://www.zncc.or.jp/shirubetto/>

中標津町総合文化会館開館30周年記念「ダンスショーケース @中標津 ～繋がる未来～」

地域に愛好者の多いダンスを軸とした3カ年プロジェクトの集大成として、町内で活動するダンス団体と共に一つのショーケース公演を創作。開館した1990年代から今日までの各世代を象徴する音楽を、ヒップホップやフラ、ヨサコイなどさまざまなジャンルの団体が表現するほか、仙庭弘品を振付・指導に迎えた公募チームによるスペシャルステージや、中標津出身のワタナベシノブが書き下ろした『イツオールライト!』の初披露など、3部構成で上演する。

[日程]3月8日

[会場]中標津町総合文化会館

しるべっと

●青森県三沢市

三沢市寺山修司記念館
〒033-0022 三沢市大字三沢字淋代平116-2955

Tel. 0176-59-3434 広瀬

<https://www.terayamaworld.com/museum/>

寺山修司原作・パロン吉元劇画『あゝ、荒野』原画展 Round 2

寺山修司生誕90年を記念した特別企画展。1964年から1年半の間、雑誌『現代の眼』に連載した小説『あゝ、荒野』は寺山唯一の長編小説として知られ、映画化、舞台化されるなど、現代に至るまで読み継がれている。本展では、同作を原作に20年ぶりとなる漫画連載を手がける漫画家・パロン吉元の直筆原稿を展示。関連企画として3月29日に

学芸員によるギャラリートークを実施する。

[日程]1月4日～5月31日

[会場]三沢市寺山修司記念館

●岩手県北上市

北上市文化創造

〒024-0084 北上市さくら通り2-1-1

Tel. 0197-61-3300 高橋裕亮

<https://www.sakurahall.jp/>

第46回北上市民劇場

『北上人(わたしたち)の輝き過ぎたあの日々高等学校』

毎年、地元ゆかりの題材でオリジナル舞台を創作する市民参加公演。構成・演出は演劇ユニットせのび主宰の村田青葉。今回は高校時代をテーマに市民ヒアリングを重ね、そこで語られたエピソードを基に創作。自らを高校3年生と言いつける不思議なおじいさんに巻き込まれた2人が、体験したことのないのどこか懐かしい「へんてこな高校時代」を過ごす物語を、20人以上の市民参加で届ける。

[日程]3月7日、8日

[会場]さくらホール feat.ツガワ

●宮城県名取市

名取市文化会館

〒981-1224 名取市増田字柳田520

Tel. 022-384-8900 武井

<https://bunka.natori.or.jp/>

続・名取寄席 特別編～継続は力なり～ 語り繋ぐ、三大話芸の底力

名取市文化会館オリジナルの寄席シリーズ。13回目となる今回は、これまでに出演した田辺銀冶(講談)、立川晴の輔(落語)、玉川奈々福(浪曲)の現代の語り部3名の豪華競演で、日本の伝統話芸である講談・落語・浪曲を一度に堪能できる。宮城県にまつわる話芸も披露される予定。

[日程]3月22日

[会場]名取市文化会館

●秋田県秋田市

秋田アトリオン音楽ホール

〒010-0001 秋田市中通2-3-8

秋田アトリオンビル4F

Tel. 018-836-7803 長沼侑奈

<https://www.kosei-buil.co.jp/atorion/>

大人のための芸術鑑賞教室～行きたかったピクニックコンサート2026～

開館当初から小中学校や特別支援学校を対象に開催してきた芸術鑑賞プログラム「ピクニックコンサート」を大人向けにアレンジ。好評につき、3回目の開催となる今回は、アトリオン音楽ホールが誇るフランス・ケルン社製のパイプオルガン、弦楽器や管楽器、鍵盤楽器、邦楽、声楽のほか、初めてウクレレの演奏も加わり、より多彩な音楽を届ける。人気の指揮者体験コーナーも実施。

[日程]3月7日

[会場]秋田アトリオン音楽ホール



昨年の公演の様子

●秋田県横手市

秋田県立近代美術館

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46

Tel. 0182-33-8855 藤井正輝

<https://akita-kinbi.jp/>

キンビ写真コレクション

美術館が収蔵する多彩な写真作品を紹介する企画展。秋田やパリでの記録も残す洋画家・小西正太郎をはじめ、秋田県の写真界黎明期に重要な役割を果

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

たした千葉禎介、ふるさと秋田を撮り続けた大野源二郎、木材加工職人の姿を撮りためた南利夫、海や海に生きる人々の魅力を伝え続ける中村征夫など、秋田ゆかりの作家たちが残した写真を楽しむことができる。

[日程]2025年11月22日～4月5日
[会場]秋田県立近代美術館

●山形県米沢市

米沢上杉文化振興財団
〒992-0052 米沢市丸の内1-2-1
Tel. 0238-26-2666 安部理絵
<https://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp>

KENSYO de JAZZ ～GOLD FINGER FIVE～

伝国の杜のエントランスに設置された能舞台のたもとをステージに、能の客席「見所(けんしょ)」からジャズを聴く、新しい形のライブ。山形・仙台のプロミュージシャンにより結成された5人組グループ「GOLD FINGER FIVE」が、ジャズのスタンダードナンバーをはじめ、1970年代～90年代の国内外のポップスなどから、春らしい楽曲を演奏予定。普段とは一味違う空間で、気軽に音楽を楽しめる。

[日程]3月7日
[会場]伝国の杜 エントランスホール

●福島県柳津町

やないづ町立斎藤清美術館
〒969-7201 柳津町大字柳津字下平乙187
Tel. 0241-42-3630 伊藤
<https://www.town.yanaizu.fukushima.jp/bijutsu/>

斎藤清と写真

斎藤清研究において欠かせない、写真や映像資料。往時の様子をリアルに伝えるそれらには、その時の斎藤が抱いていた関心や想いまでもが留められてお

り、画家と作品への理解を深める重要な手がかりとなっている。さらに、写真家たちとの交流は斎藤の画業にも大きな影響を及ぼした。そうした「写真」と斎藤清の関係を関連作品とともに紹介する。

[日程]1月6日～3月29日
[会場]やないづ町立斎藤清美術館

関東

●栃木市

栃木市立美術館
〒328-0016 栃木市入舟町7-26
Tel. 0282-25-5300 杉村浩哉
<https://www.city.tochigi.lg.jp/site/museum-tcam/>

鈴木賢二と徹

栃木市出身の版画家・彫刻家の鈴木賢二(1906～87)は、昭和4(1929)年に東京美術学校(現東京藝術大学)卒業直前に学内で軍事教練反対のビラを撒き自主退学。以後も制作を続け、北関東の版画運動の中心的人物として活躍した。鈴木徹(1935～94)は賢二の長男として生まれ、彫刻の道で早くから頭角を現した。本展では人間愛に満ちた作品をつくり続けた父と子の作品から、その芸術を生んだ栃木の地と時代について考える。

[日程]1月10日～3月22日
[会場]栃木市立美術館

●群馬県高崎市

高崎市美術館
〒370-0849 高崎市八島町110-27
Tel. 027-324-6125 青木忍
<https://www.city.takasaki.gunma.jp/site/art-museum/>

5つの部屋2026 5つの小宇宙へようこそ

展示室それぞれに異なるテーマを設け、多様な表現を巡る所蔵品展。彫刻における立体表現の可能性を探る「三次元の部屋」、

力強い線や繊細な線など多彩な線描を味わう「線の部屋」、左右対称的な構成の作品を特集する「シンメトリーの部屋」、作家による光のとりえ方や描写の違いを楽しむ「光の部屋」、さまざまな展開をみせる女性表現に迫る「彼女の部屋」で、多彩な所蔵品を紹介する。

[日程]1月10日～3月15日
[会場]高崎市美術館

●群馬県館林市

群馬県立館林美術館
〒374-0076 館林市日向町2003
Tel. 0276-72-8188 定松晶子
<https://gmat.pref.gunma.jp/>

Dear Animals and Plants

—親愛なる仲間たち—

「自然と人間」をテーマに作品を収集してきた群馬県立館林美術館の所蔵品の中から、同館のテーマと繋がり深い動物や植物を題材にした絵画・版画・彫刻・写真など約70点を展示する企画展。同館の所蔵品をまとめて見られる貴重な機会、前半は細密な版画、後半は大画面や立体作品を中心に、近代洋画から現代美術まで、動植物にまつわる豊かな美術の世界を紹介する。

[日程]1月17日～4月5日
[会場]群馬県立館林美術館

●千葉県鎌ケ谷市

鎌ケ谷市きらりホール
〒273-0101 鎌ケ谷市富岡1-1-3
Tel. 047-441-3377 渡邊尚之
<https://kamagaya-kirarihall.jp/>

第9回かまがや市民創作ミュージカル『森女～神の子と呼ばれた娘』

2016年から始まった市民参加型プロジェクト。今回は、第1回での好評を受けて思い入れのある『森女(もりめ)』を再演。鎌ケ谷市にゆかりのある相澤美智子の

脚本・演出で、公募で集まった子どもから大人まで約60人のキャストとボランティアスタッフが、半年かけてつくり上げる。初演時は客演もあったが、8回のノウハウを得て、再演の今回は全員公募のキャストで上演される。

[日程]3月14日、15日
[会場]鎌ケ谷市きらりホール

●東京都世田谷区

せたがや文化財団
〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー5F
Tel. 03-5432-1543 佐藤史治
<https://www.setagaya-ldc.net/>

三軒茶屋 大三角地帯展 —ひらき、ひもとく記憶と記録—

世田谷区三軒茶屋にある通称・三角地帯の記憶と記録を紐解き、「生活」のかたちと未来への残し方について考える来場者参加型の展覧会。来場者から募った項目を会場内で改訂して公開する「大三角地帯辞典」など、各種スタディツアーやワークショップを通し、来場者から思い出話や写真を集め、展示が更新されていく。

[日程]1月20日～3月22日
[会場]生活工房ギャラリー

●東京都渋谷区

渋谷区文化総合センター大和田
〒150-0031 渋谷区桜丘町23-21
Tel. 03-3464-3251 瀬川美保
<https://shibu-cul.jp/shibuyaku>

Live Performance SHIBUYA 森山開次『火の鳥』

各界を代表するアーティストと共にさまざまなパフォーマンスを創出するシリーズ。開館15周年を迎えた今年度は、森山開次(演出・振付・ダンス)と實川風(ピアノ)が、ストラヴィンスキーのバレエ音楽『火の鳥』の創作舞台に挑む。全曲版と呼ばれる1910年版をストラヴィンスキー自ら編曲

したピアノ独奏版にて上演する。
[日程]3月20日
[会場]渋谷区文化総合センター大和田

北陸・中部

●新潟市

新潟市美術館
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9
Tel. 025-223-1622 藤井・島田
<https://www.ncam.jp/>

開館40周年記念「路傍小芸術」

無名の人々の手につくられ、多くの人々に見つめられてきた造形を集めた展覧会。手描きで何点も作成された長岡市のペットサロンの看板や、サービスエリアの情報ポスター、児童版画、老舗割烹のお品書きなど、真心と工夫が詰まったどこか懐かしい作品を紹介する。街と人々、ストリートの歴史と民俗に対してどこまで誠実に・正直に・リアルになれるかを試みる。

[日程]1月24日～3月22日

[会場]新潟市美術館



松田ペット看板(長岡市内、2018年頃)

●富山県富山市

富山市民文化事業団
〒930-0858 富山市牛島町9-28
Tel. 076-445-5610 福岡美奈子
<https://www.aubade.or.jp/>

come come THEATER! 音楽とダンスでめぐるバックステージツアー

舞台の仕組みやパフォーマンスを楽しめる劇場ツアー。観客は個性豊かなナビゲーターに導かれてバックヤードを回遊し、各所で繰り広げられる民謡やジャズ、

ダンス、光の演出に出会う。最後は観客もスタッフも舞台上上がり、共に踊る大団円へ。総合演出はダンサーの田畑真希。市民キャストが主役となり、観客が劇場そのものに親しむ、特別な時間をつくり上げる。

[日程]3月20日、21日

[会場]オーバード・ホール



オーバード・ホール 中ホール開館記念「come come THEATER!」(2023年7月)
©空耳カメラ

●富山県黒部市

黒部市美術館
〒938-0041 黒部市堀切1035
Tel. 0765-52-5011 樋口真理子
<https://kurobe-city-art-museum.jp/>

Kurobe Art Research vol.3

富山芳男 存在を求めて

黒部市にゆかりの作家を紹介するシリーズの第3回。今回は黒部市出身の画家・富山芳男(1910～2001)の展覧会。富山は18歳より素描を学び、上京後「自然の神秘と自己の存在」をテーマに精神絵画の樹立を試み、晩年まで「存在についての習作」という題名で多くの絵画作品を残した。本展では、黒部市や黒部市美術館所蔵の作品を中心に紹介する。

[日程]1月17日～3月22日

[会場]黒部市美術館

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
Tel. 076-220-2800 高木遊
<https://www.kanazawa21.jp>

SIDE CORE

Living road, Living space / 生きている道、生きるための場所

東日本大震災以降、“異なる場所をつなぐ”ものとしてストリートカルチャーに取り組みアートチーム「SIDE CORE」の企画展。美術館と、奥能登国際芸術祭への出展や能登でのボランティア経験をもつSIDE COREの思いが重なり実現。「道路」や「移動」という視点から、「異なる場所をつなぐ表現」をテーマにさまざまな展示・企画を展開。美術館が地域にとって“生きるための場所”、さまざまな価値観や生き方が交錯する“生きている場所”となれるのみに挑む。

[日程]2025年10月18日～3月15日

[会場]金沢21世紀美術館

●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団
〒440-0887 豊橋市西小田原町123
Tel. 0532-39-3090 吉川剛史
<https://www.toyohashi-at.jp/>

市民と創造する演劇『赤鬼』

舞台手話通訳付きバージョン

公募で選ばれた市民出演者と市民スタッフ、プロスタッフで演劇作品を創作。11回目となる今年は、樋口ミユを演出に迎え、1996年の初演以降、日本だけでなくイギリスやタイ、韓国でも上演されてきた野田秀樹の名作『赤鬼』を舞台手話通訳とともに上演する。また、視覚に障がいのある観客に向けた舞台説明会も開催。

[日程]3月7日、8日

[会場]穂の国とよはし芸術劇場PLAT



2024年度ワークショップ＆ショーイング「赤鬼」より

●愛知県安城市

安城市生涯学習部文化振興課
〒446-0026 安城市安城町城堀30
Tel. 0566-77-6853 谷村捺美
<https://www.city.anjo.aichi.jp/>

第3回安城市アートマネジメント講座受講生主催公演「弦楽四重奏による癒しコンサート」

アートで地域を盛り上げたい人材を育成するアートマネジメント講座受講生の企画によるコンサート。品川佳代氏(西尾市文化会館芸術監督)を総合コーディネーターに迎え、4年目となる今年は、受講生による企画を開催する実践的なカリキュラムを展開。「音楽を身近に、ゆったりと聴けるコンサート」を目指して出演者と選曲。「うたた寝タイム」と題した第2部では、クッションなどを持ち込みリラックスして鑑賞できる。

[日程]3月15日

[会場]安城市中心市街地拠点施設アンフォーレ

近畿

●三重県津市

津市久居アルスプラザ
〒514-1136 津市久居東鷹跡町246
Tel. 059-253-4161 鹿毛貴之
<https://www.tsuhisai-ars.jp/>

津市久居アルスプラザ開館5周年記念「アルススーパープラスキックオフ・コンサート!」

津市久居アルスプラザ開館5周年を記念して結成したウインドオーケストラ「アルススーパープラス」の第1回定期演奏会。館長を務めるオーボエ奏者・脇岡総一の指揮の下、高校生からシニア世代まで多様なメンバーが在籍し、音楽文化の発展と市民交流の促進に取り組んでいる。地域の吹奏楽部や第47回全日本おおかさんコーラス全国大会でグランプリに輝いた香良洲自動

▼ 今月の情報

アートセンター、アートクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

車学校をゲストに迎える。

[日程]3月14日

[会場]津市久居アルスプラザ

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7133 平末広
<https://www.biwako-hall.or.jp>

びわ湖ホール プロデュースオペラ プッチーニ作曲『トゥーランドット』

びわ湖ホールが開館以来、力を注いできたオペラ制作。今回は芸術監督・阪哲朗のプロデュースオペラ第3弾作品として上演。栗國淳による新演出で、公募オーディション227人の中から選出した実力派キャストが、中国を舞台に冷酷な女王トゥランドットと謎解きに挑むカラフの愛と運命を描く。8日には本番前の会場で、舞台装置を間近に演出家から話を聞けるワークショップも開催する。

[日程]3月7日、8日

[会場]滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●堺市

堺 アルフォンス・ミュシャ館
〒590-0014 堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
Tel. 072-222-5533 川口裕加子
<https://much.sakai-bunshin.com/>

企画展「ミュシャが夢見たハーモニー」

華やかで優雅な女性像のポスター作品で広く知られる芸術家アルフォンス・ミュシャの新たな一面を再発見できる展覧会。館を代表する大型油彩画《ハーモニー》に初めてスポットを当て、コレクションから厳選した数々の作品に共通するモチーフや構図を読み解きながら、経済的な成功だけに満足せず、広く民衆が楽しめる芸術をめざしたミュシ

ャの人々への想いを探る。

[日程]2025年12月6日～3月29日

[会場]堺 アルフォンス・ミュシャ館

●神戸市

神戸市立小磯記念美術館
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7
Tel. 078-857-5880 一柳由樹
<https://www.city.kobe.lg.jp/kanko/bunka/bunkashisetsu/koisogallery>

特別展「小磯良平展—幻の名作《日本髪娘》」

気品と静謐さに満ちた女性像を描く人物画で多くの方に愛された洋画家・小磯良平の特別展。小磯の画業をたどる上で欠かせない名作《日本髪娘》(韓国国立中央博物館蔵)は2008年に再発見されるまで幻の作品と考えられていた。本展では念願の里帰り展示が実現し、約90年ぶりの日本展示となるほか、所蔵品を中心に小磯の画業を振り返る。

[日程]1月10日～3月22日

[会場]神戸市立小磯記念美術館



小磯良平《日本髪娘》(1935年/韓国国立中央博物館蔵)

●和歌山県和歌山市

和歌山県立近代美術館
〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14
Tel. 073-436-8690 井上芳子
<https://www.momaw.jp/>

万博のレガシー—解体と再生、未完の営為を考える—

1851年に誕生した国際博覧会(万博)は、参加国の文化や高い

技術力を発信する一大催事として行われると同時に、国際社会が抱えるさまざまな矛盾と葛藤を内包してきた。本展は、創造と解体を繰り返す万博の特異な祝祭空間について振り返り、万博に託された理念や付随する今日的課題にもふれ、万博のレガシー(遺産)を来場者と共に再考する。

[日程]2月14日～5月6日

[会場]和歌山県立近代美術館

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団
〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5
Tel. 0857-21-8700 南・金井
<https://tottori-caf.or.jp/>

とっとり郷土芸能フェスティバル2026

鳥取県に伝わる多彩な郷土芸能6団体が一堂に会する舞台公演。中学生による継承の取り組みをはじめ、民踊や盆踊り、神楽など、地域ごとに受け継がれてきた郷土芸能を幅広く紹介する。舞台公演ならではの構成により、各地域の郷土芸能を一度に鑑賞でき、普段ふれる機会の少ない演目を楽しむことができる。手話通訳付きで、誰もが鑑賞しやすい公演として開催する。

[日程]3月8日

[会場]エースパルク未来中心

●鳥根県雲南市

雲南市演劇による街づくりプロジェクト実行委員会
〒699-1311 雲南市木次町里方55
Tel. 0854-42-1155 青木奈緒
<https://unnan-engeki.com>

雲南市創作市民演劇2026『麒麟の城』

2010年から始まった市民演劇の公演を2年ぶりに開催。鳥根県内の高校で演劇部顧問を務

める亀尾佳宏が脚本・演出を担当。2019年の初演以降、再演を希望する声が多く上がっている『KIRINJI〜新説・山中鹿介〜』をベースに、国宝指定10周年を迎えた松江城天守を築城した堀尾吉晴の物語を盛り込んだ作品を、公募で集まった参加者と共につくり上げる。

[日程]3月28日、29日

[会場]雲南市木次経済文化会館 チェリヴァホール



『麒麟の城』稽古の様子

●岡山県奈義町

奈義町現代美術館
〒708-1323 勝田郡奈義町豊沢441
Tel. 0868-36-5811 遠山健一郎
<https://www.town.nagi.okayama.jp/moca/>

山本一雄 小さな部屋から

国立ハンセン病療養所・長島愛生園で暮らし、89歳になる現在も毎日自身の表現と向き合いながら描く画家・山本一雄の初の大規模個展。山本は、故郷や家族と離れ、30代で入所した時より用いている仮の名前。会場の中心部分にはアトリエが再現され、画家の存在を体感し、絵画と一緒に鑑賞することで、その人生に思いを馳せるインスタレーション空間にもなっている。面相筆と呼ばれる細い筆で色を塗り重ねた油彩画には画家の積み重ねてきた時間や暮らしが凝縮されており、作品世界の美しさと、その先にある「大事な何か」を鑑賞者に語りかける。

[日程]2025年12月13日～3月1日

[会場]奈義町現代美術館

●岡山県真庭市

真庭市蒜山ミュージアム
〒717-0602 真庭市蒜山上福田1205-220
Tel. 0867-42-1178 三井知行
<https://www.greenable-hiruzen.co.jp/>

みんな違う!が共通点:隈研吾建築資料/蒜山ミュージアムの活動展

美術の醍醐味は、制作でも鑑賞でも、一人ひとりが違い、同じ人でも条件が変われば違う側面が見えてくる点にある。建築も、同じ設計者であっても条件や環境が異なれば別の建物となり、同じ建物であっても、使う人が変われば建物の個性も変化する。その観点から、蒜山ミュージアムを設計した隈研吾の建築資料を紹介すると同時に、蒜山ミュージアムのイベントを写真や成果作品で振り返る。

[日程]2025年12月6日~4月12日
[会場]真庭市蒜山ミュージアム

●広島県呉市

呉市立美術館
〒737-0028 呉市幸町4-9 入船公園内
Tel. 0823-25-2007 豊田芳春
<https://www.kure-bi.jp/>

地域の芸術家支援事業「川手和美・岩本道明・おりでちせーそれぞれのface」

「地域の芸術家支援事業」として令和2年度より、呉地域にゆかりのある作家の展覧会を開催してきた呉市立美術館。5回目となる今回は、呉市に在住し制作活動をしている点描画作家・川手和美、陶芸家・岩本道明、イラストレーター・おりでちせの3人それぞれの表現による「顔(face)」にまつわる作品を紹介する。3人の作家によるワークショップも開催。

[日程]3月14日~4月19日
[会場]呉市立美術館

●山口県萩市

山口県立萩美術館・浦上記念館
〒758-0074 萩市平安古町586-1
Tel. 0838-24-2400 末吉武史
<https://hum-web.jp/>

三輪窯—陶の造形—

約400年の伝統をもつ萩焼の窯のひとつとして伝統を重んじ、新たな可能性を模索し続けてきた名門窯元「三輪窯」歴代の代表的な作品を紹介。江戸時代に作陶された初代三輪休雪による萩赤楽茶碗、十代休雪と弟の十一代休雪がつくり上げた「休雪白」と呼ばれる純白で滑らかな釉薬を用いた作品、十二代休雪のオブジェなどが並び、歴史的な変遷を見ることが出来る。

[日程]1月17日~4月26日
[会場]山口県立萩美術館・浦上記念館

●香川県観音寺市

ハイスタッフホール(観音寺市民会館)
〒768-0060 観音寺市観音寺町甲1186-2
Tel. 0875-23-3939 香川敬恵
<https://www.city.kanonji.kagawa.jp/>

観音寺子どもミュージカル「姫浜で見つけた魔法使い2026」

2017年の開館を記念して市民ミュージカルが発足し、19年以降、小中学生を中心とする「観音寺子どもミュージカル劇団 TOTE・TON」として、継続的に活動を展開。8回目の今回は、『オズの魔法使い』を題材にした観音寺版オリジナルミュージカルを上演。約9カ月にわたり稽古を重ねた43人の子どもたちが、合田



令和4年度公演「姫浜で見つけた魔法使い」

玲子の演出で舞台に挑む。

[日程]3月15日
[会場]ハイスタッフホール(観音寺市民会館)

●香川県坂出市

香川県立東山魁夷せとうち美術館
〒762-0066 坂出市沙弥島字南通224-13
Tel. 0877-44-1333 北地直子
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/higasiyamakaii/higashiyama/>

魁夷の木版画—その技と道具

収蔵品の中から、東山魁夷(1908~99)の木版画作品とともに、実際に制作に使用された版木や摺りの道具などの資料を展示。原画を描く絵師としての魁夷と、版木を彫る彫師、それを摺り上げる摺師との分業によりつくられる制作過程から、緻密な手作業を積み重ねた木版画の魅力伝える。

[日程]1月23日~4月5日
[会場]香川県立東山魁夷せとうち美術館

九州・沖縄

●熊本県小国町

坂本善三美術館
〒869-2502 阿蘇郡小国町黒瀬2877
Tel. 0967-46-5732 長尾萌佳
<https://sakamotozenzo.com/>

善三美術館のコレクションたち—この場所で描く、この場所を描く

開館30周年を記念し、坂本善三美術館の多彩なコレクションを紹介する2部構成の展覧会。前編では、小国町出身の画家・坂本善三と同時代を生きた関連作家の作品を紹介。後編となる本展では、善三を育んだ小国町や熊本、阿蘇に縁の深い作家や地域を題材とした作品を展示し、善三の原点となる土地の魅力を鮮やかに描いた作品の世界を楽しめる。

[日程]3月7日~5月24日
[会場]坂本善三美術館

●大分県大分市

J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分市金池南1-5-1
Tel. 097-576-8877 關理紗子
<https://www.horutohall-oita.jp/>

豊後FUNAIミュージカル『蒼天の彼方に凧と咲く。』

ホールを拠点に創造的な文化活動を目指し、開館を記念して結成された市民劇団「豊後FUNAIミュージカル」。2014年から毎年、大分の歴史や文化を題材にしたオリジナル作品を上演し、「時代劇エンターテインメント」という独自のスタイルを確立してきた。13年目の今回は、公募で集まった78人の市民キャストが出演し、大友宗麟と天正遣欧少年使節の絆を描く。

[日程]3月15日
[会場]J:COM ホルトホール大分

●宮崎県宮崎市

宮崎市民プラザ
〒880-0001 宮崎市橘通西1-1-2
Tel. 0985-86-7777 島井康代
<https://www.siminplaza.com/>

演劇公演「わたしのいるところ」

市民プラザプロデュース第2弾として今年は演劇をお届け。宮崎県在住者を対象に公募で集まった6歳~79歳までの約40人が半年間の演劇塾で基礎から学び、舞台へ立つための稽古を経て公演に挑む。宮崎の実在する街の3つの「通り」を描いたオムニバス作品で、そのうちの1つは、塾生がフィールドワークから街で見つけた物語の種を劇団こふく劇場の濱沙果宏が脚本にしていく進行形の作品となっている。

[日程]3月15日
[会場]宮崎市民プラザ

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、下記担当までご連絡ください。

●情報提供先

芸術環境部 伊藤
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

●北海道苫小牧市

苫小牧市民文化ホール「ART CUBES(アートキューブズ)」

〒053-0018 苫小牧市旭町3-3-3

Tel. 0144-33-3577

<https://www.tomakomai-hall.jp/>

◎2026年3月1日オープン



©川澄・小林研二写真事務所

これまで苫小牧の文化・芸術を支えてきた市中心部の市民会館や文化会館、労働福祉センター、交通安全センターの閉館に伴い、4施設の各機能を統合した市民活動の新たな拠点としてオープン。

施設の呼称「アートキューブズ」は、文化芸術活動(ART)の箱(CUBE)が積み重なった建物のイメージから名付けられた。コンサートや演劇公演、大規模な会議にも使用可能なグランドホールやギャラリー、活動室のほか、苫小牧市が掲げる「ウォークアブルなまちづくり」の拠点として、敷地内には樹木を活かしたプロムナード空間やイベント広場などが設けられている。

子どもも大人も、誰もが自由に立ち寄れるサードプレイスとして、芸術文化を通した「にぎわい」創出を目指す。

[オープニング事業] 苫小牧市民文化ホール ART CUBES オープニングイベント〈オープンデイ〉
[施設概要] グランドホール(1,200席)、マルチホール(400席)、ギャラリー、アートスペース、ピアノルーム、和室 ほか

[設置者] 苫小牧市

[管理・運営者] 氷都とまこまいパートナーズ(株)

[設計者] (株)久米設計

●群馬県藤岡市

藤岡市複合施設ふじまる

〒375-0024 藤岡市藤岡942-1

Tel. 0274-22-0220

<https://www.city.fujioka.gunma.jp/soshiki/kenkohokushibu/fujimaru/index.html>

◎2025年10月13日オープン



旧総合病院跡地に整備された複合施設。跡地活用には、有識者検討委員会で必要な機能や課題の解決策を検討し、図書館をはじめ、子育て世代の交流や子どもを育む機能のほか、文化交流拠点となる多目的ホールを設けることで、新しい世界にふれるきっかけを提供する場となる施設づくりを目指した。図書館は、知識や情報との出会いの場として多様な資料を提供していくとともに、誰もが気軽に立ち寄り、充実した時間を過ごすことができるよう、さまざまな新しい機能を設備。最大300人収容の多目的ホール「ふじまるホール」は、作品の展示会や講演会、研修会などさまざまなイベントに利用が可能。多彩な施設を集積することで、市民の憩いと学びの場であるとともに、市街地の活性化を担うまちのシンボルとなることを目指す。

[オープニング事業] ふじまるオープン記念特別イベント(出演:小野小学校合唱部ほか)

[施設概要] ふじまるホール(約470㎡)、藤岡市立図書館、プレイルーム、子育て・健康センター ほか

[設置・管理・運営者] 藤岡市

[設計者] (株)佐藤総合計画

●岡山県備前市

備前市美術館

〒705-0001 備前市伊部1659-6

Tel. 0869-64-1400

<https://bizen-moa.jp/>

◎2025年7月12日オープン



備前焼をはじめ、美術・工芸など幅広い分野の展示や情報発信を行うため、市立備前焼ミュージアム(1977年開館)の建て替え工事を経てグランドオープン。

建物は、備前焼の精神にも通じる「素の美」をテーマに、作品の美しさが際立つモノトーンを基調とし、瀬戸内海の波を想起させる自然石や黒御影石など、地域の自然が育んだ素材を使用。ガラス張りで柔らかな自然光も差し込むエントランスホールでは、備前焼の人間国宝・伊勢崎淳が開館を記念して制作した巨大なモニュメント「土と炎の記憶」が来館者を迎える。

地域の文化創造拠点、そして備前の現代陶芸の魅力を国内外へと発信する新拠点として、まちに開かれた公園のような美術館を目指している。

[オープニング事業] 開館記念特別展「ピカソの陶芸—いろとかたちの冒険—」ほか

[施設概要] 展示室4室(約69~207㎡)、歴史展示室(約69㎡)、講堂、茶室・屋上庭園、ラウンジ、ミュージアムショップ&カフェ

[設置者] 備前市

[管理・運営者] (一財) 備前市文化芸術振興財団

[設計者] (株)櫻井潔建築設計事務所・ETHNOS

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

京都市

京都コンサートホール 開館30周年記念事業 「京都市ジュニアオー ケストラ創立20周年 記念コンサート」



撮影：田浦ボン

●京都市ジュニアオーケストラ創立20周年記念コンサート
【会期】2026年1月31日
【主催】京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)／京都市
【会場】京都コンサートホール 大ホール
【指揮】広上淳一、大友直人、下野竜也

●京都コンサートホール
「世界文化自由都市宣言」の理念の下、平安建都1200年記念事業の一環として京都市が建設した音楽専用ホール(1995年10月開館)。設計は磯崎新。ドイツ製パイプオルガンを備えたシューボックス型大ホール(1,833席+車いす用スペース6)と室内楽等に対応したアンサンブルホールムラタ(510席+車いす用スペース4)を有し、円形のエントランスホール、そこからホールに続く螺旋状のスロープが特徴。1956年に京都市が直営で創設した京都市交響楽団(2009年から財団法人京都市音楽芸術文化振興財団に運営を移管)の本拠地。指定管理者制度により03年から財団法人京都市音楽芸術文化振興財団(12年に公益財団法人化)が運営。「京都の秋 音楽祭」など国内外の演奏家による質の高いコンサートを実施。ジュニアオーケストラの育成、登録アーティストによるアウトリーチ(19年～)、街中で行う「Kyoto Music Caravan」(23年、25年)などを展開。令和7年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞。

京都コンサートホール(KCH)開館30周年記念事業の一環として、京都市ジュニアオーケストラ創立20周年記念コンサートが1月31日に開催された。ゆかりの深い指揮者である下野竜也、大友直人、広上淳一の3人が登場し、モーツァルトの「オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットと管弦楽のための協奏交響曲変ホ長調」、ラヴェルの「ボレロ」、サン＝サーンスの「交響曲第3番オルガン付き」の3曲をそれぞれ指揮。アンコールでは、日頃の合奏指導をしてきた若い2人、井手カナ、東尾多聞もタクトを振った。出演したメンバーは小学生から22歳までの団員102名で、プロとして活躍しているOG・OB4名がソリストとして共演。ステージマネージャーも卒団生で、チケットは完売御礼と、20年の蓄積を感じる熱いステージに、聴衆は喝采を送った。

●京都市ジュニアオーケストラは2005年、京都市交響楽団(京響)創立50周年、KCH開館10周年を機に、京響常任指揮者だった大友のイニシアティブで創設された。市の直営だった京響が、プロの演奏家を育てるのではなく音楽を通じた人材育成を目的にスタート(現在はKCHが運営)。2021年からKCHプロデューサーを務め、今回の企画をした高野裕子は言う。

「楽器を始めて間もない児童から音大生まで、約110人が在籍しています。この幅広さもうちの特徴の一つでしょう。京響の団員の演奏指導を受け、定期演奏会とサマー・コンサートの年2回、演奏会を開催しています。意欲的に自主練習し、先輩が後輩の面倒をよく見えます。オーケストラの節目にあたり、設立に携わってくださった大友さん、折々の大事なタイミングに来てくださった下野さん、スーパーヴァイザーをずっと務めてくださった広上さんをお招きし、これまでの20年を振り返りたいと思いました。それと同時に、この演奏会で一つの区切りをつけ、また新しいオーケストラとして歴史をつくっていきたくて考えています」

公共ホールの環境が大きく変化するなか、京都出身の高野はこの10年のKCHの歩みをどの

ようにとらえているのだろうか。

「プロデューサーに就任した当時感じたのは、まだまだ京都の人たちをホールに巻き込めていないのではないかとということ。私が留学したフランスでは、地元の音楽家がある地で活躍していてとても豊かに感じていたので、KCHでも京都の演奏家を積極的に起用するようにしました。音楽ファンだけではなく、さまざまな層のお客さんにホールへ足を運んでほしいと考え、京響の団員に依頼する活動のほかに登録アーティストによるアウトリーチもスタート。当初は関西在住以外の演奏家も起用していましたが、コロナ禍を経て、距離が近い関西在住の新進演奏家にオーディションの対象を変更しました」

アウトリーチは、ジュニアオーケストラでも積極的に行っている。

「オファーをいただいたお寺などで小編成のアンサンブルによる演奏会を行っています。2024年夏に行ったクラウドファンディングでいただいたご支援で、3月22日に石川県立音楽堂で石川県ジュニアオーケストラとの合同演奏会、翌23日にはジュニアオーケストラの有志メンバーによる被災地5カ所での訪問演奏会を企画しています」

一方、今年70周年の節目を迎える京響も、独自のアウトリーチ展開を図っている。チーフプロデューサーの高尾浩一は言う。

「京響70周年記念では京都の街に貢献する意味も込めて『京(みやこ)の音楽会』を企画しました。着物で演奏する西陣織会館での『「織」の音楽会』、和菓子を提供しながら音楽を楽しんでもらう京菓子資料館での『「菓」の音楽会』など、さまざまな場所・趣向で演奏を行います。もともと楽団員が主体的に活動するのが京響の特徴で、経験豊富なメンバーを中心に切磋琢磨する空気は健在。23年に第14代常任指揮者に就任した沖澤のどかの求心力もあり、今、気力が充実した良い雰囲気です」

古都・京都のクラシック音楽の老舗団体に、新たな風が吹き始めている。

(舞台芸術ライター・高橋彩子)